



2020年(令和2年)  
10月13日  
火曜日

発行所  
中部経済新聞社  
〒450-8561  
名古屋市中村区  
名駅4-4-10  
編集局 052(561)5212  
読者開拓局 052(561)5216  
広告部 052(561)5218  
事業部 052(561)5675  
総務部 052(561)5215  
東京支社 03(3572)3601  
©中部経済新聞社2020  
購読のお申し込み  
☎0120・605・123



# 家族 介護の危機

▽  
▽  
2

家族介護を考えるにはこの50年の「家族像の変化」は無視できない。つまり今の90歳代と50歳代では「家族イメージ」がはなはだしく異なるからだ。実はそれが家族介護をむずかしくしていると私は考える。家族像の変化を私なりに三つに整理したい。

## 家族像

第一は「家族人数の変化」である。昭和は祖父祖母、父母、子どもの三世同居が当たり前だった。かくいう私はきょうだい4人の末っ子で7人家族だった。大家族、それが

### 三つの変化と二つのジレンマ

模の小規模化」に拍車がかかった。第二は「家族の役割変化」である。夫は扶養(稼働)、妻は養育(育てる)という性別役割分業が日本の家族スタイルだった。妻にはもっぱら良妻賢母が求められた。家庭は情緒的に安定できる場所

第三は「結婚のカタチの変化」がある。戦前は家督相続主義でイエ意識が強く、お見合いでは「家の格」が重視された。嫁ぎ先もせいぜい近隣市町村だった。だから親戚が近場に固まっていた。そして何より「血縁」が重視

が全国で起こっている。遠距離介護となる背景も実はこの頃から始まっていたのだ。そして第二がジレンマ(葛藤)。家族社会学ではそもそも二つを抱えていると考える。そのひとつが「選べないジレンマ」(非選択性)である。【ケアタウン総合研究所代 表・高室成幸】

が当たり前だった。高度経済成長の波に乗り「核家族」が喧伝され戦後60年ではほぼ定着し、三世代家族は地方のわずかとなった。この核家族誘導は家や車、家電品を売るのにピツタリのコピーだった。家族人数の少数化で「世帯規

模の小規模化」に拍車がかかった。第二は「家族の役割変化」である。夫は扶養(稼働)、妻は養育(育てる)という性別役割分業が日本の家族スタイルだった。妻にはもっぱら良妻賢母が求められた。家庭は情緒的に安定できる場所

第三は「結婚のカタチの変化」がある。戦前は家督相続主義でイエ意識が強く、お見合いでは「家の格」が重視された。嫁ぎ先もせいぜい近隣市町村だった。だから親戚が近場に固まっていた。そして何より「血縁」が重視

が全国で起こっている。遠距離介護となる背景も実はこの頃から始まっていたのだ。そして第二がジレンマ(葛藤)。家族社会学ではそもそも二つを抱えていると考える。そのひとつが「選べないジレンマ」(非選択性)である。【ケアタウン総合研究所代 表・高室成幸】